

農作物への被害

北海道と猿払村で起きている被害はどれくらいあるのか



有害鳥獣から産業を守る

猿払村では、有害鳥獣による牧草ロールなどの農作物への被害が後を絶たず、農家への被害は深刻なものになっています。また、シカにいたっては、道路に飛び出し交通事故につながる被害もあります。今回は、有害鳥獣による被害や、有害鳥獣から村を守ってくれてくれている人たち、村を守るために行っている活動などを紹介します。

1_道路に飛び出すシカ。シカは群れて行動するため、1頭が道路を横断すると、2頭目以降が次々と渡ることもあるので注意。2_シカの群れ

北海道が行った『令和元年度野生鳥獣による被害調査』によると、野生鳥獣による被害金額は47億円。農業被害では、全体の8割がエゾシカによるもので、作物別の農林業被害では、牧草が18億4千万円と全体の5割を占める割合となりました。また、令和元年度のエゾシカが関連する全道の交通事故発生件数は、3188件ありました。

猿払村では、エゾシカとアライグマによる牧草や牧草ロールへの被害が最も多いです。過去5年（平成28年度～令和2年度）の合計で、被害金額は1588万7千円にも上ります。【表1】

また、令和2年に発生したシカとの衝突事故は、19件ありました。

駆除・防除活動を行っています。繁殖数が多いため、なかなか被害防止が追いついていない状況です。

※アライグマの被害規模については、平成28～30年度は被害戸数、令和元～2年度は駆除頭数

【表1】 獣類による農林水産被害状況調査(産業課調べ)

アライグマ	被害規模		被害額(千円)	
	ロール	ロール	牧草	ロール
R2 ▶	29	432	2,250	55
R1 ▶	22	320	3,495	41
H30 ▶	18	234	2,550	30
H29 ▶	15	200	2,280	25
H28 ▶	15	200	3,750	25
合計	99	1,386	14,596	176

エゾシカ	被害規模		被害額(千円)	
	牧草(ha)	ロール(個)	牧草	ロール
R2 ▶	150	29	2,250	55
R1 ▶	223	82	3,495	41
H30 ▶	170	60	2,550	30
H29 ▶	152	50	2,280	25
H28 ▶	250	50	3,750	25
合計	945	271	14,596	176

有害鳥獣とは？

有害鳥獣とは、人や家畜、農作物などに被害を与える野生の動物のことです。村が対策を行う有害鳥獣は、エゾシカ、キツネ、ハシブトガラス、ヒグマ、アライグマです。毎年捕獲計画を立てて、「猿払村被害防止計画」を定めています。

有害鳥獣とは？

猿払村に潜む有害鳥獣の生態

FILE 05

ハシブトガラス ハシボソガラス

体長 約 50 cm
体重 約 550 ~ 750 g

- ・小学校低学年並みの知能をもつ
- ・そのため捕獲には手間がかかる
- ・夜はねぐらで過ごす

FILE 04

ヒグマ

体長 約 1.5 ~ 2 m
体重 約 100 ~ 400 kg

- ・日本では北海道のみに生息する国内で最大の陸上生物
- ・時速 40 ~ 50 km で走ることがある

FILE 03

アライグマ

体長 約 70 ~ 90 cm
体重 約 4 ~ 10 kg

- ・主に夜間に活動
- ・木登りが上手で手先が器用
- ・可愛い見た目とは裏腹に凶暴
- ・日本には天敵がない

FILE 02

キツネ

体長 約 70 cm 尻尾約 40cm
体重 約 2.5 ~ 10 kg

- ・「エキノコックス」と呼ばれる危険な寄生虫が寄生している可能性がある

FILE 01

エゾシカ

体長 約 90 ~ 190 cm
体重 約 70 ~ 150 kg

- ・群れて行動する習性
- ・秋は動きが活発化
- ・繁殖能力が高い

若い世代へ繋ぐ

部会長を務める猟友会歴 25 年のベテランハンターへインタビュー



北海道猟友会稚内支部猿払部会
部会長 杉本 政典 さん

平成 8 年に猟友会に入会。
今年 4 月より部会長を務める。

―入会のきっかけ
もともとハンティングに興味はありませんでしたが、猟友会の会員の方と仲良くなり、仕留めた鳥獣で作った料理をごちそうになって、「こんなに美味しいのか」と衝撃を受けました。それがきっかけとなり、美味しいものを食べられるのならと思いい入会しました。

―印象に残ったできごと
浅茅野台地の草地へヒグマ駆除に出動した時のことです。銃を撃って当たったけれど手負いにしてしまったため、道路を全て封鎖し、警察のヘリコプターで見つけ、追

出してもらい無事捕獲しました。警察や村職員など大人数が動員されたことで今でも鮮明に記憶に残っています。

―最近の活動について
2、3年前までは、会員が10名程度と少なかつたため、駆除できる数も少なく、被害がなかなか減りませんでした。しかし、ここ最近で会員が増え、現在は21名在籍しています。活動範囲が広がり、各地区にハンターがいます。そのため、緊急を要する場合でも広く対応できるようになってきました。

―新しい会員について
ハンターになりたいという人がいれば相談にのり、免許の取り方などを一から教えて協力します。また、免許を取った後も、ベテランハンターが活動に同行して指導をしています。

銃を持つ前には、生きている野生鳥獣を殺すという行為を躊躇なくできるのかどうかを聞いています。罪悪感を持つようであれば銃を持つことはおすすしません。わなの免許のみでも入会可能です。若い人が入会してくれるのはとてもありがたいので、興味を持った方はぜひ一度ご相談ください。

―猟友会のこれから
二年後には自分も還暦を迎えるので、今は会員相互の親睦を深めつつ猿払部会を盛り上げて、この状況を維持しながら次の若い世代にバトンタッチしたいです。

担当者の声

村民の安全を守っている 猟友会にご理解を

本村の猟友会は有害鳥獣駆除業務委託により、年間700頭以上のエゾシカ駆除を行っており、また、近年ではアライグマによる農業被害も増加し、年間200頭以上の駆除を実施しております。さらに、ここ数年ではヒグマの目撃情報が年々増加傾向にあり、見回りや駆除等、重要な役割を担っています。猟友会の活動は、中々目にする機会はないと思いますが、村民の安全生活や産業を守るため昼夜問わず日々活動していることをみなさんにご理解いただきたいと思います。



産業課 課長補佐
末永 祐樹

村を守っている人たち

有害鳥獣からの被害をなくすため、日々活動している「猟友会」とは。

猟友会猿払部会

有害鳥獣の被害をなくすための重要な取り組みとして「駆除対策」があり、猿払村では猟友会がその活動を担っています。

猟友会猿払部会（部会長 杉本 政典さん）は、北海道猟友会稚内支部の猿払部会という位置づけで、銃を扱うことのできる第一種銃猟免許や第二種銃猟免許、わな猟免許などの狩猟免許を持った人など21名が会員となっています。

有害鳥獣駆除活動

4月1日から9月末まで（アライグマのみ1年間）は村からの委託、10月から3月20日までは猿払村の農業団体より委託を受けています。この期間は、猟銃やわな猟により委託のあった頭数を駆除する活動を行います。生態系を守るためにも、必要以上の駆除は行いません。

会員のほとんどが普段は別の仕事をしているため、

猟友会の活動は仕事の合間を縫って行い、一人での行動がほとんどですが、休日などはグループ猟もしています。



▲はこ罠設置の様子。中には動物をおびき寄せるための果物を入れる。

memo

「有害駆除」と「狩猟」

「有害駆除」は、農林水産業の被害を防ぐために行われる捕獲のこと。「狩猟」は、決められた期間、決められた場所で、決められた動物に対して、許可された方法で捕獲等を行うことです。

「狩猟」は、毎年11月15日から翌年2月15日まで（北海道では毎年10月1日から翌年1月31日まで）の期間のみできます。猿払村でも、この時期に道外から狩猟しに来る人がたくさんいます。

パトロール

ヒグマの目撃情報があった際には、地域住民の方が安心できるように、周辺をパトロールしています。

また、ヒグマはシカを食べることもあるため、亡くなったシカが放置されていないかなどの確認も日々の駆除活動と合わせて行っています。

年に1回、決まったルート車を走りながら、スポットライトで林内を照らし、エゾシカを探して数える調査「エゾシカライトセンサス」を行っています。この調査は、光で照らすと動物の目は光ることから夜間に行い、シカがどれくら

	場所	頭数	時間(分)
R2 ▶	豊里・芦野	74	57
	小石	5	27
R1 ▶	豊里・芦野	73	43
	小石	3	25
H30 ▶	豊里・芦野	46	45
	小石	6	42

【表2】エゾシカライトセンサス



▲村ではヒグマの目撃情報があった周辺に注意喚起の看板を設置している

いっているのか、減っているか増えていくかなどを知ることができます。過去の調査結果を見ると、たった1時間程度で、70頭以上ものシカを確認したこともありま

【表2】